

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸美容学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖生理学Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	講義室
担 当 教 員	本多 健	実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

質の高い臨床を行う為には解剖生理学の知識が欠かせない。解剖生理学Ⅱでは主に運動器(関節・筋)について学習する。関節・筋それぞれの概略を学び、人体の大まかな構造を理解する。運動器では大きく体幹・上肢・下肢の3部に分けてそれぞれ、関節の構造と動き、筋の起始・停止・支配神経・作用を学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

平常評価(小テスト、筋課題)30%、期末試験70% 60点以上を合格とする。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:『解剖生理学』東洋療法学校協会編、医歯薬出版、(2022年第1版)、(1)教科書:『解剖生理学Ⅱ』東洋療法学校協会編、医歯薬出版、(2022年第2版)、(2)参考図書:『解剖学(第2版)』、東洋療法学校協会編、医歯薬出版、『解剖学講義』、伊藤隆著、南山堂、『イラスト解剖学』、松村譲児著、中外医学社、『解剖学アトラス』、越智淳三訳、文光堂、『解剖学』、清水勘治著、金芳堂など

《授業外における学習方法》

- シラバスにて教科書「解剖生理学」の項目を記述してます、事前に指定所をよく読んで予習をしておくことが望ましい。また、模型を使用する等して理解を深めましょう。
- 授業中に課題を配布するので、授業後に課題を実施して、指定日に提出すること。
- 授業のはじめに前回までの授業内容から、小テストを実施しますので、復習をし、課題・資料などを見て確認を行うこと。

《履修に当たっての留意点》

解剖生理学は重要な基礎科目です。なにより人体の構造は鍼灸師、医療人として必須の知識です。特に解剖生理学Ⅱは実技においてはもちろんのこと、経絡経穴学・整形外科・リハビリテーション医学などにも関わってきます。しっかり理解しておくようにしましょう。

授業の方法	内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標 関節の種類と動作方向を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント	教科書(P15~16)と配布プリント(P~)内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定 関節の分類と運動方向 教科書p15~16、20、49、50		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標 椎間関節について理解し、説明できるようになる。(靭帯と関節面の形状)	教科書・プリント	教科書(P32、33)と配布プリント(P~)内容を復習しておく。 教科書と配布プリント内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定 椎間関節 教科書P32、33		
第3回 講義形式	授業を通じての到達目標 肩・肘関節の構造について理解し、説明できるようになる。(関節唇と回旋筋腱板)	教科書・プリント 骨格模型	教科書(P36~37)と配布プリント(P~)内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定 上肢の関節 教科書P36~37		
第4回 講義形式	授業を通じての到達目標 股関節の構造について理解し、説明できるようになる。(靭帯、特に関節内靭帯である大腿骨頭靭帯)	教科書・プリント 骨格模型	教科書(P38、42)と配布プリント(P~)内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定 手(橈骨手根)関節と股関節 教科書P38、42		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標 膝・距腿関節の構造について理解し、説明できるようになる。(靭帯、特に関節内靭帯である膝十字靭帯と三角靭帯について)	教科書・プリント 骨格模型	教科書(P194~196)と配布プリント(P43~45)内容を復習しておく。 教科書と配布プリント内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定 膝関節、足(距腿)関節 教科書P43~45		

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 骨格筋の構造と機能を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型	教科書(P22～23)と配布プリント(P)内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	教科書 P22～23		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 筋収縮の構造の仕組み、エネルギー代謝、収縮と筋電図について理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型	教科書(P24～26)と配布プリント(P)内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	教科書 P24～26		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 筋の概論と上肢帯の筋について理解し、説明できるようになる。(起始・停止・支配神経・作用)	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型, 筋課題配布	筋課題 P21～22 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。
	各コマにおける授業予定	骨課題提出締切予定 筋肉の分類と上肢帯筋 教科書P58～62		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 上腕部の筋について理解し、説明できるようになる。(起始・停止・支配神経・作用)	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	筋課題 P23～26 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。
	各コマにおける授業予定	上腕の屈筋と伸筋、前腕の屈筋 教科書P62～64		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 前腕の筋と手の筋について理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	筋課題 P27～30 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。 教科書と配布プリント内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	前腕の伸筋と手の筋 教科書P65～69		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 下肢の筋、下肢帯の筋と大腿部の筋について理解し、説明できるようになる。(起始・停止・支配神経・作用)	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	筋課題 P31～34 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。
	各コマにおける授業予定	骨盤の筋と大腿部の筋(伸筋・屈筋) 教科書P69～74(P74 内転筋を除く)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 大腿の内転筋、下腿の筋、足の筋について理解し、説明できるようになる。(起始・停止・支配神経・作用)	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	筋課題 P35～44 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。
	各コマにおける授業予定	内転筋群と下肢の筋全て 教科書P74～76		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 胸筋、横隔膜の孔など、体幹の筋について理解し、説明できるようになる。(起始・停止・支配神経・作用)	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	筋課題 P8～10 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。
	各コマにおける授業予定	胸筋と横隔膜と腹筋 教科書P51～54		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 腹部、背部の筋について理解し、説明できるようになる。(起始・停止・支配神経・作用)	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	筋課題 P11～17,1～2 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。
	各コマにおける授業予定	側腹筋、鼠径管、背筋、菱形筋、脊柱起立筋、 教科書P55～58		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 今までの範囲を理解し、説明できるようになる。		自分が間違えた所や分からなかった所を覚えておき、終了後に全授業の中からもう一度探し出し、正しい内容を覚える。
	各コマにおける授業予定	まとめ 筋課題提出締切		